

## 令和4年(2022年度)「大学教員の企業現場研修」開催報告

### 1. 開催趣旨

大学教員の教育力向上を支援するため、賛助会員の全面的な協力を得て、情報産業における事業戦略の動向、若手社員を交えた大学での学びに対する要望などの意見交換を通じて、授業改善に向けた気づきを提供している。

### 2. 開催日時及び参加状況

日 時：2023年2月16日(木) 12:30~17:15

参加者：オンラインによるテレビ会議形式(Zoom使用)で実施し、67大学80名が参加。

### 3. プログラムの概要

10:20	Zoom 接続開始
10:30	開会挨拶
10:35~12:05 日本電気(株)  (休憩 13:00迄)	<p>(1) 社会価値を創造する NEC の事業概要の紹介 (15分)</p> <p>NEC は、安全・安心・公平・効率という社会価値を創造し、誰もが人間性を十分に発揮できる持続可能な社会の実現を目指しています。社会価値を創造する NEC の事業概要についてご紹介します。</p> <p>(2) 最新技術動向の紹介 (30分)</p> <p>NEC では、教育機関へ提供してきた統合 ID 管理にマイナンバーカード連携機能を付加し、生涯の教育データを一元化し本人にとって最適なデータ利活用を実現する仕組みを提供します。</p> <p>(3) 若手社員との意見交換 (45分)</p> <p>社会人になってから今までの経験を通じて、大学時代にやっておけば良かったと思うことや、大学時代に役立った経験・授業はどのようなことだったのか等について若手社員から発表し、意見交換を行います。</p>
13:00~14:30 (株) 内田洋行	<p>(1) 内田洋行の教育分野における DX 戦略の紹介 (15分)</p> <p>教育分野の DX 戦略では、様々なシステムが連携・構成するデジタル・エコシステム構築が今後のキーワードになります。技術標準により連携した事例を紹介し、運用の最適化や学習データの分析・利活用を考えます。</p> <p>(2) 内田洋行の人事戦略の紹介 (30分)</p> <p>内田洋行の社員教育プログラムを通じて、「情報の価値化と知の協創をデザインする企業」を目指して取り組んでいる人材育成の考え方や仕組み、採用などを紹介し、意見交換を行います。</p> <p>(3) 若手社員との意見交換 (45分)</p> <p>システムエンジニア及び営業若手社員から業務内容、必要なスキル、ICT 企業の最新の課題や実態、また大学時代に役立った経験や大学への要望などを発表し、その後参加者と意見交換を行います。</p>
14:35~16:05 (株) 日立製作所	<p>(1) 日立の事業戦略・「Lumada」の紹介 (15分)</p> <p>日立は OT・IT・プロダクトを結びつけて新たな価値を生み出す「Lumada」を推進しています。Lumada による社会課題解決・顧客企業の課題解決に向けた取り組みをご紹介します。</p> <p>(2) 「Station Finder for Area Marketing」の紹介 (30分)</p> <p>首都圏エリアの約 600 駅の Suica の利用状況に基づくレポート「駅カルテ」を利用したサービスで、Suica データによるリアルな人流の把握やマーケティング、まちづくりの検討などにお役立ていただける取組みを紹介します。</p> <p>(3) 若手社員との意見交換 (45分)</p> <p>営業部門と SE 部門の入社 3~4 年目の若手社員から業務内容、必要なスキル、最新の課題や実態、大学時代に役立った経験や大学への要望などを発表し、意見交換を行います。</p>
16:05~17:35 (株) 富士通 Japan	<p>(1) 最新の大学 DX(デジタル・トランスフォーメーション)の取り組み紹介 (15分)</p> <p>富士通が開発したブロックチェーン技術でデータを安全・安心に流通させる基盤を利用し、大学を取り巻く様々なステークホルダー(企業や地域など)との連携を可能にする取り組みを紹介します。</p> <p>(2) パーパスドリブンを実現する新卒採用 (30分)</p> <p>不確実な時代の中、富士通グループがどうあるべきなのかを定めたパーパスを実現するために、採用のあり方も変革が求められます。現時点での取り組みをご紹介します。</p> <p>(3) 若手社員との意見交換 (45分)</p> <p>入社 2 年目の若手社員 3 名から現在の仕事の内容や経験を踏まえ、大学時代に役立った授業や学ぶべきこと、大学に対する要望などについて発表し意見交換を行います。</p>
17:35	閉会挨拶

#### 4. 参加者の声 (回答者 25 名のアンケートを集計)

1. 今回の研修で大学の授業現場で役に立ちそうなことはありましたか	アンケート回答者25名	① あった	② どちらともいえない	③ なかった
	回答数	21	4	0
	回答割合	84.0%	16.0%	0.0%
	※ 参加者の84%が、今回の研修が大学の授業現場で役に立つと回答している。			
2. この研修を他の教員にも紹介したいと思いますか	アンケート回答者25名	① 他の教員にも紹介したいと思う	② どちらともいえない	③ 思わない
	回答数	20	4	1
	回答割合	80.0%	16.0%	4.0%
	※ 参加者の80%が、今回の研修を他の教員にも紹介したいと思うと回答している。			
3. 大学教育に求められる取組みについての意見	① Society5.0やDXをはじめ企業活動が大きく変化している中で、将来の企業活動について大学でもある程度の共通認識を持つ必要があるのではないかと強く感じた。			
	② 若手社員から、大学教育に求めるものは傾聴に値し、大学での教育を考え直す良い機会になりました。今後、企業の教育担当者、あるいは発表した若手社員の上司のご意見もうかがってみたいと思いました。			
	③ 若手社員からの発表を通じて、就活センターの取組みが学生に伝わっていない印象を受けた。大学として改善すべき点だと思う。			
	④ 産学連携教育として、大学教育の中に企業活動を知るプログラムを導入、企業活動に係る社会人の声を取り入れる必要性を感じた。			
	⑤ PBLや海外大学とのオンライン授業、ゼミ、学会発表等の経験やよりインタラクティブな学びが求められていることを感じた。			
	⑥ 若手社員からPBLなどで多様な意見を知り、批判的に考える力を高める発表などが役立っていると聞き、授業改善の必要性を強く感じた。			
	⑦ 社会から必要とされる人材育成が大学の使命ならば、形式的な認証評価ばかりに気をつけるだけでなく、今回の研修のような場を通じて企業現場からのフィードバックをしっかりと聞いて教育改善を図ることが大事だと感じた。			
	⑧ 企業の目指す方向や社会的背景などはゼミで生きた題材として活用できると思う。最新の情報を活用して授業を改善していきたい。			
	⑨ 若手社員の多くから、大学時代に「エクセル」、「ワード」などPCの使い方をもっとやっておけばよかったと言われたのは印象的だった。			
	⑩ 若手社員から、「大学でやったこと」、「大学時代に身に付けるべきスキル」、「大学でやったことの入社後の活かし方」等の話が聞けて大変参考になった。今後の授業改善や学生指導に生かしたい。			
	⑪ 他大学の卒業生の意見は殆ど聞く機会が無いので、若手社員から大学教育への要望を直接聞けたのが良かった。			
4. 大学教員の企業現場研修全般についての意見	① この時期の開催は有難く、今後も実り多い内容で計画して欲しいが、1日は長すぎると感じた。			
	② この研修は、特に大学の経営・執行に係る役職者に必要な内容であり、経営・執行部の役職者対象の研修として実行しても良いと思う。今回のテーマで、私情協での「FD・SD研修」が実施できれば教職員が情報を共有し、教育改善のためのボトムアップが可能になると思う。			
	③ オンラインでは一部の意見がフォーカスされがちである。対面でもっと企業の方とのコミュニケーションがとれるようにしてほしい。その方が面白い意見交換ができるので対面での実施を望む。			
	④ 私情協の研修はテーマも魅力的で参加したいものが多い。オンラインだと参加しやすいので継続して欲しい。			
	⑤ オンライン開催で遠方からの参加ができたのが良かった。実施時期、内容については問題なくテーマは非常に興味深く良かった。			